

5年1組 社会 私たちの生活と工業生産

指導者 大山 喜裕

○ 本時のねらい

我が国の工業生産の現状と課題を踏まえながら資料を活用して調べたことをまとめ、工業生産の発展について思考・判断したことを3つ以上の根拠を基に表現することができる。

○ 本時における小中一貫重点スキル育成のための手立て

「表現ツールを活用した討論型学習の充実」として、三角ロジックを活用し、価値判断型の授業を展開する。

○ 学習計画及び本時の展開

時	学 習 計 画	
1~2	近年の工業をめぐる状況として、ロボット産業に注目が集まっていること、グローバル化の中での生き残りが重要であることについて、具体例を挙げながら確認し、意見を作成しておく。	
3 (本 時)	学習活動及び内容 (学習形態) 1 学習課題を確認する。 (一斉)	・指導上の留意点 ☆重点スキル育成の手立て ◎評価 ・既習事項確認のため、前時を振り返る。
	自動車工業を中心とした日本の産業に、賛成？反対？	
	2 意見交換をする。 (小集団→移動) <予想される児童の反応> ○賛成派 ・自動車は生活に必要なから。 ・日本の工業に自動車は欠かせないから。例) 生産額, 様々な工夫 ・ロボットは価格が高いから。 ・50年以上中心産業だから。 ○反対派 <ロボット推進派> ・ロボットは生活に必要なから。 ・可能性に満ちているから。 ・世界的にロボット技術が進んでいるから。 ・自動車を使う人口が減っていく。 ・つくば市は、ロボット先進地域だから。 <情報産業推進派> ・ポケモンGOやマリオランなどの情報コンテンツが世界的に大きな影響を及ぼしているから。 ・人工知能が発展してきているから。	・児童の意見はタブレット学習システムを活用して集約しておく。 ・意見を紅白帽子の色で色分けし、視覚的にわかりやすくしておく。 ・相手を論破することではなく、相手と意見を交流することが目的であることを確認してから話し合いを始めるようにする。 ☆表現ツールを活用した討論をする場を設定する。(D1言語力) ・自動車に関する資料の他、おそうじロボット等の実物を用意することで、話し合いの活性化を図る。 ・ポケモンGOなどのコンテンツの画面を用意することで、話し合いの活性化を図る。 ・情報産業推進など、工業の枠組みにとらわれない意見についても取り上げるように留意する。 ・小グループの話し合いについては、時間に留意しながら進めるようにする。 ・児童から出てきた意見はキーワードでまとめ、板書するようにしていく。 ◎工業生産の発展について思考・判断したことを相手に伝えるように3つ以上の根拠を基に表現することができたか。(ノート, 発表)
3 意見を発表する。 (一斉) 期待される児童・生徒の姿 数値データなど客観的な根拠に基づいて考えることができる。	・主な意見を取り上げ、討論の概要をもう一度確認する。 ・討論を受けて意見の変容があったか聞いてみる。その際、決め手となった意見(根拠)は何か確認するようにし、まとめにつなげるようにする。	